

平成29年11月29日
横浜幸銀信用組合

第5回会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議」を設置いたしました。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的とし、平成26年12月2日に第一回経営諮問会議を開催、以後半期に一度の周期で「経営諮問会議」を開催しております。

平成29年7月20日（木）、「第5回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

記

1、日 時

平成29年7月20日（木） 16:00～17:30

2、場 所

横浜幸銀信用組合本店4階大会議室

3、出席者

（経営諮問委員）＜敬称略＞

長谷川 勉	（日本大学商学部商業学科 教授）
後 宏治	（公認会計士 税理士）
佐藤 明夫	（弁護士）
川上 陸司	（経営コンサルタント）

（横浜幸銀信用組合）

呉 龍夫	（理事長）
溝江 雅夫	（副理事長）
齊藤 智成	（専務理事）
藤田 敬二	（専務理事）
有川 繁雄	（常務理事）
田中 昭彦	（常務理事）

池野 和己	(常務理事)
安田 浩	(常勤理事)
金 忠善	(常勤理事)
澤崎 秀幸	(常勤監事)

4、呉理事長挨拶要旨

3月に旧九州幸銀信用組合と合併し、横浜幸銀信用組合としてスタートをしたことや新たな合併に向けた協議に入ったことにも触れ、本日委員の皆様方からご質問、ご意見を頂戴し、今後の経営に生かしてまいりたいとの挨拶を行いました。

5、当組合からの説明要旨

- ・平成29年3月期の決算内容
- ・平成29年3月期における「経営強化計画」における進捗状況

6、意見交換

出席者から以下のご意見、ご提言を頂きました。

- 地方銀行においても、店舗を削減し、その余剰人員を営業フロントに配置する等、顧客との接点を増加させ、CS向上につなげる試みをしており、既成概念に捉われない店舗戦略を検討する必要がある。
- 事業性評価による貸出金を増加することも重要であるが、預金の大口化から預金の質を高める戦略を考えることも重要である。
- ネットリテラシーの高まりにより、顧客と金融機関との属性が希薄になってきている。組合として特定の属性を持つ顧客の掘り起こしを図ることが組合の強みになる。
- 顧客と多岐に渡る話ができる関係作りのために、顧客へ足繁く訪問し長期的視野に立った信頼関係構築につなげるコミュニケーションスキルの向上を図る必要がある。
- 店舗建替えの際には、現金ハンドリングコストから考え、ミドルオペレーションを本店に集約し、支店ではノーカウンター等検討し、効率化を図るべき。
- 店舗に依存しないサービスを安価に提供するフィンテックベンチャーを活用することでビジネスチャンスにつながる。
- 取引先拡大のため、マーケティングの分野では、消費者コミュニティの組織化を構築ことに注力しており、組合員同士の横のつながりを持たせる「中央会」や「こうぎん倶楽部」を活用し取引先拡大につなげて欲しい。

(2) 組合からの回答

本日は貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございました。

本日頂いた貴重なご意見・アドバイスを内部で検討し、取引先への綿密なフォローアッ

プと営業面での情報の集約の徹底、そして、お客様から安心できるとの評価を得られるような組合を目指し、今後の具体的な戦略、施策に繋げて参りたいと存じます。今後とも委員の皆様のご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。本日は、長時間に亘り、有難うございました。

以上